

7. 分室サービスの変遷

平成2(1990)年の津田図書館開設にともなって、平成元(1989)年に津田分室が閉室した。鉄道の駅から近いなど地理的に利便性の高い地域を中心として分室から分館へと展開していった結果である。

残った13分室は開室日数を増加させるなど市民の利便性の向上に取り組んだ。昭和49(1974)年より西口公設市場内で開室していた枚方公園分室を、平成2(1990)年1月の枚方公園青少年センターの新築と同時に移転し、2階にリニューアル開室した。分室としては初の複合施設で、当初の週4日だったが利用状況に合わせて、8月には日曜日を含む週5日開室をするとともに、初めて午前10時30分からの開室とした。



現在の枚方公園分室(平成27(2015)年)

この年、各分室は小学校1年生に向けて図書館利用案内のPR紙を作成し、近隣小学校に出向き先生方に直接配布を依頼するとともに、分室のPRを行った。後に分室職員でPR委員会を作り全小学校に配布するようになる。この手法は、現在は児童サービス委員会が引き継いで全館で全小学校を対象に取り組んでいる。また、快適な利用ができる施設にと望まれていたクーラーを全分室に設置した。さらに、藤阪分室が開室15周年を迎えた年でもあり、記念文集を発行した。

平成3(1991)年1月に藤阪分室、宮之阪分室が週4日開室、平成4(1992)年には禁野分室を除く全分室を週4日開室とした。

平成5(1993)年5月には図書館サービスの空白地

帯であった東部地域に分室を建設するため、氷室分室検討委員会に分室非常勤職員も加わって発足し、平成6(1994)年12月に氷室分室の開室に至った。平成7(1995)年には小中学校の夏休み期間の午前開室の試行を氷室分室で始めた。

平成5(1993)年11月6日、7日開催の「第2回子どもの本フォーラム」では、分室は工作の部屋を担当した。普段の分室での工作行事の経験をいかして作成指導をし、親子連れの来館者に喜ばれた。

平成7(1995)年、「枚方市事務事業再構築プラン」が発表され、図書費の大幅な削減とともに分室の見直しを検討した。利用者の反対運動もあったが、平成13(2001)年3月末に野田分室、南船橋分室、禁野分室の3分室を閉室した。同年9月に村野分室をサプリ村野(旧村野小学校)に移転した。分室では、90年代から乳幼児と保護者対象のおはなし会を始めていたこともあり、ひらかた版ブックスタートが子育て支援室所管で始められた時にも円滑に連携することができた。乳幼児健診の部屋で絵本の紹介と読み聞かせを行い、赤ちゃん絵本のリストを手渡した。後に枚方市立図書館全体の赤ちゃん絵本リストや枚方版ブックスタート事業への図書館の関連事業につながっている。

さらに、この頃から近隣小学校からの要望で、学校訪問おはなし会に分室職員が数多く出向いた。平成12(2000)年3月から積尊寺分室で、続いて平成14(2002)年に東香里分室、茄子作分室、平成15(2003)年に宮之阪分室が、それぞれの近隣小学校5校の1年生~6年生、支援学級などに年間5~6回おはなし会を実施した。児童の利用促進の一役をになっていたが、平成23(2011)年にサービス全館統一を図ったため、結果として分室の訪問おはなし会は大きく回数を減らすことになった。

開室曜日については平成14(2002)年に村野分室で午前開室が始まると同時に、昭和59(1984)年9月から試行していた村野分室と茄子作分室の土日

の隔週開室を、全分室土曜日開室へと統一した。

また、村野分室、茄子作分室、東香里分室で、これまで実施していなかったマンガの貸出をはじめ、徐々に広げて現在は全分室で所蔵、貸出をしている。

平成 17(2005)年 4 月の中央図書館開館に伴い、中央図書館エリア内の招提分室は 3 月末で閉室し、代わって 9 月から土曜日の午後のみ招提小学校図書室を活用した貸出を始めた。自動車文庫の配本によるものだったが、大阪府内で発生した小学生無差別殺傷事件の後でもあり、学校内への出入りについて安全面とのバランスがとりにくく、利用が広がらないまま、平成 21(2009)年 12 月に終了した。中央図書館開館に伴っては、山田図書館も 3 月末で閉館し、規模を縮小した上で、6 月に初のコンピュータ導入分室(山田分室)を再オープンした。枚方公園分室、村野分室にもコンピュータを導入し、9 月に再開室した。

平成 21(2009)年 4 月、全分室へのコンピュータ導入が実現し、市内の図書館すべてをオンライン化した。コンピュータ導入を始めて 12 年、中央図書館開館から 4 年、長期に亘る手作業との二元的貸出方式を解消した。

平成 23(2011)年 7 月から 9 月にかけて、枚方市子ども夢基金活用事業として『奏でる 絵本・語る音〜子どものための絵本と音楽の出会いコンサート〜』を枚方演奏家クラブと分室職員で、各分室の地域の公民館など 9 会場で行った。どの会場も満員で、参加総数 846 人(子ども 507 人 大人 339 人)だった。

平成 24(2012)年はサプリ村野のリニューアル工事に伴い村野分室は 1 年間休室となり、翌年 4 月再開室した。

分室では、5 年や 10 年ごとに開室周年記念行事を工夫して実施してきた。平成元年以降だけをみても、以下の通りである。

☆平成 7(1995)年 11 月。藤阪分室が開室 20 周年。「宮沢賢治の世界 林洋子ひとり語り」と人形劇を開催し記念文集発行。

☆平成 10(1998)年 11 月。禁野分室開室 25 周年。土居安子氏による記念講演会「子どもの本を楽し

む」と人形劇を開催し、記念文集を発行。

☆平成 17(2005)年 9 月。藤阪分室、東香里分室開室 30 周年。手作りのペープサートと、バルーンアートを開催。

☆平成 18(2006)年 7 月。茄子作分室開室 25 周年。影絵とバルーンアートを開催。

☆平成 19(2007)年 8 月。香里園分室開室 20 周年。人形劇を開催。

☆平成 21(2009)年 7 月。釈尊寺分室開室 30 周年。ブックトークや講師を招いての「紙ひこうき作り」などを開催。

☆平成 23(2011)年 1 月。茄子作分室開室 30 周年。人形劇を開催。

☆平成 25(2013)年 7 月。宮之阪分室開室 30 周年。人形劇を開催。

☆平成 26(2014)年。村野分室、枚方公園分室 40 周年、氷室分室 20 周年。

☆平成 27(2015)年。40 周年の藤阪分室は落語の会、東香里分室は職員による科学遊びとバルーンアート。



東香里分室 40 周年記念行事(平成 27(2015)年 12 月)

地域の施設を借りたり、市内で活動する人形劇団にお願いしたりの身近な行事である。

利用者との距離が近く、地域の中の枚方市立図書館最前線として 30 年、40 年と歩んできたが、最多時 16 あった分室も、現在では 11 分室となった(サテライトを含む)。授業時間の延長や、その他の社会変化の影響もあり、かつては押し寄せるようだった小学生の利用は減って、乳幼児と保護者や高齢者が利用の中心になってきている。徒歩圏内でより気軽に利用しやすい図書館施設へと、施設面の課題など検討が求められている。